

令和 6 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立難波中学校

令和 7 年 2 月

## 目次

## 総括シート

● <a href="#">学校運営の中期目標</a> .....	3
● <a href="#">中期目標の達成に向けた年度目標</a> .....	4
● <a href="#">本年度の自己評価結果の総括</a> .....	5

## 目標別シート

<a href="#">最重要目標 1 安全・安心な教育の推進</a> .....	6
● 取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】 .....	6
● 取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】 .....	6
● 取組内容 03【基本的な方向 2-1 道德教育の推進】 .....	7
● 取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】 .....	7
● <a href="#">結果と分析、改善点</a> .....	7
<a href="#">最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上</a> .....	9
● 取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】 .....	9
● 取組内容 06【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 .....	9
● 取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 .....	10
● 取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】 .....	10
● <a href="#">結果と分析、改善点</a> .....	10
<a href="#">最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実</a> .....	12
● 取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 .....	12
● 取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】 .....	13
● 取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】 .....	13
● 取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】 .....	13
● <a href="#">結果と分析、改善点</a> .....	14

## 大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

## 現状

いじめ・虐待等については、教職員の理解も深まり、迅速な対応(認知、認定)へとつながっている。また、学校の規則について、社会通念上、合理的でないというルールを見直してきたが、まだ積極的に見直す部分もある。

生徒間での話し合い活動については学校全体で定着してきているが、しっかりとした「型」が全員一致で示されておらず、自分の考えを論理的に伝える力が弱く、深い学びにつながりにくい。これは、定期テストや授業観察からも見て取れる。「論理力」を身につけ、自分の考えや思いを論理的にかつ簡潔に相手に伝える力を、教員も生徒も習得する必要がある。

生徒の最善の利益を求めることと同時に、「生きる力」を育み伸ばしていくため、教職員がそれぞれの長所を生かしながら、「毅然と対応する」・「丁寧に対応する」・「達成感を与える」・「我慢して見守る」・「失敗経験・成功体験を積ませる」必要があり、そのためには様々な体験を積みませたり、外部との連携を強め、地域総がかりの教育を進める必要がある。

## 課題

不登校傾向の生徒等に対する適切な支援について、その対応の方法や適切な人員の配置にかかる教職員の共通認識が必要である。また、スペシャルサポートルーム(SSR)の活用について、真に必要なとする生徒が安心して活用できるように使用方法や場所、教室利用の見直しなどが必要である。

家庭訪問や学習支援、保護者との関係づくりなど、地に足をつけた地道な取組は継続して実施する。また、「学校安心ルール」に基づいた問題行動の対応について連携し、毅然と対応し、生徒の安全・安心な学びの場の構築に努める。

教育活動のすべての場面において、論理力の向上を見据えた子ども達への関わり方を、全教員が意識して継続する必要がある。また、ICT 機器の活用を洗練し、不登校生徒への学習保障を、生徒には情報モラル情報リテラシーの向上を図る必要がある。生徒には教職員はグループウェア機能などの活用をさらに進める必要がある。

## 中期目標

## 安全・安心な教育の推進

◇ 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 82%以上にする。

➤ R3:75.2%、R4:80.0%、R5:76.0%、R6:84.6%

◇ 全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 95%以上にする。

➤ R3:94.2%、R4:92.8%、R5:93.3%、R6:93.9%

◇ 全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 77%以上にする。

➤ R3:72.5%、R4:81.9%、R5:77.3%、R6:86.2%

## 未来を切り拓く学力・体力の向上

◇ 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、令和 7 年度末に国語・数学とも 1.00 以上にする。

➤ R3:国 0.94 数 0.96、R4:国 0.96 数 1.05、R5:国 0.92 数 0.92、R6:国 1.03 数 0.90

◇ 本市調査(大阪市英語力調査)における CEFR A1 レベル(英検 3 級)相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を、令和 7 年度末に 56%以上にする。

➤ R3:52.6%、R4:48.2%、R5:45.0%、R6:48.44%

◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、令和 7 年度末に男女とも 1.01 以上にする。

➤ R3:男 0.99 女 0.99、R4:男 1.11 女 0.98、R5:男 0.95 女 0.89、R6:男 1.07 女 1.02

#### 学びを支える教育環境の充実

- ◇ 学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除き、授業日において学習者用端末を毎日使用する。
- R4:100%、R5:100%、R6:100%
- ◇ 「学校園における働き方改革推進プラン」における、教員の勤務時間の上限に関する基準 1・2 を満たす教職員の割合について、令和 7 年度末に大阪市平均以下にする。
- R4:基準 1…38.71%、基準 2…54.84%、R5:基準 1…31.03%、基準 2…55.17%  
R6:基準 1…31.25%、基準 2…78.13%
- ◇ 全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」に対して、読書時間が 30 分未満の生徒の割合を、令和 7 年度末に 65%未満にする。
- R3:76.9%、R4:67.2%、R5:72.1%、R6:項目なし
- ◇ 全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 50%以上にする。
- R3:27.0%、R4:29.1%、R5:28.0%、R6:項目なし

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

#### 安全・安心な教育の推進

- ◇ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 15.9% ※前年度 14.9% ※未達成
- ◇ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 97%以上にする。
- 96.4% ※未達成
- ◇ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 78%以上にする。
- 76.0% ※未達成

#### 未来を切り拓く学力・体力の向上

- ◇ 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 1 年 34.94%、2 年 29.07%、3 年 27.87% ※前年度 1 年 41.0%、2 年 16.4%、3 年 36.8% ※未達成
- ◇ 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 1 年 25.30%、2 年 27.91%、3 年 15.25% ※前年度 1 年 44.0%、2 年 26.7%、3 年 45.5% ※達成
- ◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1 週間の総運動時間」が 60 分未満の生徒の割合を 24%以下にする。
- 25.2% ※未達成

#### 学びを支える教育環境の充実

- ◇ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)
- 24.5%(12 月末時点) ※未達成
- ◇ ICT を効果的に校務や学習活動で有効に活用していると回答する教職員の割合を 75%以上にする。
- 83.3% ※達成
- ◇ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。
- 76.3% ※達成
- ◇ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 67%以上にする。
- 58.7% ※未達成

## 3 本年度の自己評価結果の総括

**本年度の学校運営全体を通じての成果**

- 安全・安心な教育の推進において、問題行動の件数減少や人権意識向上の取り組みが一定の成果を上げた。
- 学力・体力向上では、体力合計点が目標を達成し、特定の学力向上施策も前進した。
- ICT 活用や働き方改革、教育コミュニティづくりなど教育環境の充実に向けた基盤整備が進展した。

**項目や取組の重点の置き方について**

- 生徒一人ひとりの成長を支えるため、不登校対応や主体的な学びの推進に重点を置いた。
- ICT 活用や働き方改革を通じた教育環境の改善、地域との連携強化にも注力した。
- 探究活動や多文化共生プログラムなど、今後の社会で求められる力の育成に取り組んだ。

**目標を達成できなかった項目に見られた課題について**

- 不登校生徒の減少目標は未達成であり、早期発見と継続的支援の不足が課題。
- 読書活動や探究学習の定着が不十分で、生徒の主体性や興味関心の広がりには課題が見られた。
- 教職員の働き方改革においては、時間外勤務削減や業務負担軽減の取り組みが一定の結果につながった。
- 厳しい家庭環境にある全ての子どもに、静穏かつ明るい教育環境の中で健全に成長できる生活保障のために、組織として、教職員全体が情熱をもって対応に当たる必要がある。

**成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと**

- 個別支援と早期介入の強化：不登校支援体制の見直しとデータ活用による早期介入を推進。
- 主体的な学びの深化：探究学習の体系化やポートフォリオ評価の導入で学びの質を向上。
- 教育環境の整備：ICT 活用の標準化と家庭学習支援、メンタルヘルスケアの充実。
- 地域との連携強化：教育コミュニティづくりを通じて、保護者・地域との協働を促進。

## 大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>安全・安心な教育の推進</b> ◇ 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ➤ 15.9% ※前年度 14.9% ※未達成 ◇ 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 97%以上にする。 ➤ 96.4% ※未達成 ◇ 年度末の校内調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 78%以上にする。 ➤ 76.0% ※未達成	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</b> ● Hyper-QU の診断結果から教職員研修を実施し、生徒理解を深めるとともにきめ細かな対応にあたる。 ● 学習動画コンテンツ等を活用し、不登校傾向の生徒への学びを保証する。 ◇ 新たな不登校生の割合を 3%以下にする。 ➤ 5.5% ※未達成 ◇ 友達や先生に相談しやすいと回答する生徒の割合を 91%以上にする。 ➤ 87.1% ※未達成 家庭訪問や別室登校、スクールカウンセリングの案内など、個別のケースに合わせた対応を進めてきた。学習コンテンツの利用促進に関しては課題を残す。	C
<b>取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】</b> ● 生活指導に積極的に取り組み、関係諸機関とも連携しながら、生徒を主体とした規範意識を醸成する。 ● 指導においては、全員が丁寧にかつ毅然と対応する。 ◇ 生徒の問題行動の件数を昨年度以下にする。 ➤ 12 件 ※昨年度 27 件 ※達成 ◇ 学校へ行くことが楽しいと回答する生徒の割合を 83%以上にする。 ➤ 80.4% ※未達成 問題行動は昨年より減少傾向であるが、配慮を要する生徒同士のトラブルが多く、生徒・保護者の理解を得ながらの対応に苦慮している側面がある。	B



年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容 03【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 道徳教育に関する研究授業や相互参観、指導方法についての研修等を通して教員の授業力を高める。</li> <li>● 生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。</li> <li>◇ 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。</li> <li>➢ 84.9% ※昨年度 85.4% ※未達成</li> <li>◇ 学期ごとに実施する生徒の意識調査において、年間を通して改善を図る。</li> <li>➢ 各質問における肯定的な回答の割合：92.9% ※2 学期 92.4% ※達成</li> </ul> <p>研究授業・相互参観、指導方法についての研修を実施し、教員の授業力を高めるよう努めたが、アンケートでは目標に届かず。生徒の意識調査においては僅かに改善。</p>	B
<b>取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域や校区小学校等と連携し、地域を知り、地域から学び、様々な個別の人権課題についての理解と認識の深化充実を図る。</li> <li>● 教職員・PTA への人権教育研修を体系的に実施する。</li> <li>◇ 生命の大切さや人権について学んでいると強く回答する生徒の割合を 78%以上にする。</li> <li>➢ 76.0% ※未達成</li> <li>◇ 全教職員が人権問題について正しく理解し、様々な立場にある生徒の理解に努める。</li> <li>➢ 100.0% ※達成</li> </ul> <p>人権に関わる教育講演会や総会などで PTA への人権啓発を実施。地域の太鼓集団による歴史を学び、伝統文化に触れる機会を設けた。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 不登校生徒の在籍比率が前年度より増加(14.9%→15.9%)。</li> <li>● 友達や先生に相談しやすいと感じる生徒の割合が目標未達成(87.1%)。</li> <li>● 個別対応の強化は進んでいるが、早期発見と継続支援が不足。</li> </ul>	
<b>取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 問題行動の件数は減少したが、未然防止策に課題。</li> <li>● 生徒間のトラブル対応に苦慮している現状。</li> </ul>	
<b>取組内容 03【基本的な方向 2-1 道德教育の推進】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道徳的な判断力や実践意欲の向上において、目標未達成の領域あり。</li> <li>● 生徒同士の意見交換や対話の場が不足し、思考の深化に課題。</li> </ul>	
<b>取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の人権意識の向上において一部未達成。</li> <li>● 多様性の理解や他者への共感力の育成が十分でない。</li> </ul>	

次年度(今後)への改善点
<b>取組内容 01【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別支援計画の強化：定期的な家庭訪問とオンライン面談の活用。</li> <li>● スクールカウンセリングの拡充：生徒の心理的安全性を高める環境整備。</li> </ul>

次年度(今後)への改善点
● データ活用による早期介入：出席状況や学習態度の変化を可視化し、リスクの早期発見に活用。
<b>取組内容 02【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ピアサポート制度の導入：生徒同士のサポート体制を構築。</li> <li>● 保護者連携の強化：問題行動発生時の迅速な情報共有。</li> <li>● 社会性スキルトレーニング：日常の授業や特別活動での継続的な実施。</li> </ul>
<b>取組内容 03【基本的な方向 2-1 道徳教育の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対話型授業の充実：グループディスカッションやディベートの導入。</li> <li>● ロールモデルの活用：地域の模範的な大人や卒業生による講話。</li> <li>● 道徳教育週間の実施：学校全体で取り組む集中期間を設ける。</li> </ul>
<b>取組内容 04【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多文化共生プログラムの実施：異文化理解を深める交流活動の強化。</li> <li>● 人権教育研修の体系化：教職員向けの継続的な研修プログラムの整備。</li> <li>● 相談窓口の拡充：生徒が安心して相談できる環境の整備。</li> </ul>



## 大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>未来を切り拓く学力・体力の向上</b> ◇ 中学生チャレンジテストにおける、国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ➤ 1 年 34.94%、2 年 29.07%、3 年 27.87% ※前年度 1 年 41.0%、2 年 16.4%、3 年 36.8% <b>※未達成</b> ◇ 中学生チャレンジテストにおける、数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 ➤ 1 年 25.30%、2 年 27.91%、3 年 15.25% ※前年度 1 年 44.0%、2 年 26.7%、3 年 45.5% <b>※達成</b> ◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1 週間の総運動時間」が 60 分未満の生徒の割合を 24%以下にする。 ➤ 25.2% <b>※未達成</b>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】</b> ● 生徒の論理力を身につける取組(R80)を全教科指導においてすすめる。実施場面においては、日々の授業のふり返りの場で実施し、記述や発言により継続して実施する。 ● すべての教育活動において、全教員が R80 を意識した説明や発問を行う。 ◇ 文章を書くことが得意だと回答する生徒の割合を 60%以上にする。 ➤ 61.3% <b>※達成</b> ◇ 論理的に簡潔に伝えることを意識している教員の割合を 90%以上にする。 ➤ 96.7% <b>※達成</b> 教科活動や単元テスト、学年・学級活動の場面において、記述や発言によるアウトプットの機会を継続して設けている。	<b>B</b>
<b>取組内容 06【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】</b> ● 探究・読解プロジェクト等を通して産官学連携を実施し、生徒の主体性を引き出し、積極的に学びに向かう力やコミュニケーション能力を養う。 ● 校園別研究目標における各教科等の課題を理解し、全教員で研究に取り組む。 ● 生徒に失敗経験・成功体験を積みせ、達成感を与え、教員は我慢して見守ることを大切にするとともに、教員が失敗を恐れずに学び続ける姿勢を持ち続ける。 ◇ 話し合い活動を通じて、考えを深め、広げられていると強く感じる生徒の割合を 57%以上にする。 ➤ 42.7% <b>※未達成</b> ◇ 将来に夢や希望を持つ生徒の割合を 73%以上にする。 ➤ 76.0% <b>※達成</b> e スポーツやバレーボールを通して探究・読解プロジェクトを進めた。試行錯誤しながら、失敗を恐れずに学び続けようとする姿勢が見られる。	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<div>取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>● 授業や体育的行事、部活動を通じ、最善を尽くして運動する態度を養い、体力の向上と心身の調和的発達を図る。</li><li>● 生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力向上を図る。</li><li>◇ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男子 40 点以上、女子 43 点以上にする。</li><li>➤ 男 44.92 点、女 48.09 点 ※達成</li><li>◇ 運動やスポーツをすることが好きな生徒の割合を 81%以上にする。</li><li>➤ 81.16% ※達成</li></ul><p>クラブチームへの所属や、部活動数が少ないために部に所属しない生徒も多い。部活動の入部率は 71.0%。</p></div>	A
<div>取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>● 毎週の安全点検、保健や健康、食育についての特別授業、昼食後の歯磨き指導を実施する。</li><li>● 健康な食生活や食物アレルギー対応について周知し、生徒・家庭の健康や食への意識向上を図る。</li><li>◇ 定期健康診断結果から要受診となった生徒の受診率を昨年度より向上させる。</li><li>➤ 32.3% ※昨年度 29.4% ※達成</li><li>◇ 規則正しい生活をしている生徒の割合を 78%以上にする。</li><li>➤ 80.0% ※達成</li></ul><p>受診率を項目別にみると、内科 0%→0%、耳鼻科 45%→27%、眼科 10%→50%、視力 26%→31%、尿 33%→29%、歯科 32%→29%、心臓 100%→100%。</p></div>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教国語・数学の学力向上に課題が残る。</li> <li>● 論理的思考力の定着不足が顕著。</li> </ul>	
<b>取組内容 06【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒の主体性と協働的な学びの定着に課題。</li> <li>● 探究活動の計画性と振り返りが不十分で学びの深まりが限定的。</li> </ul>	
<b>取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 体力合計点は目標を達成したが、運動習慣の継続が課題。</li> </ul>	
<b>取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康診断の受診率向上や健康意識の向上に一部課題あり。</li> <li>● 生徒と保護者の健康管理への意識の差異が課題。</li> </ul>	

次年度(今後)への改善点
<b>取組内容 05【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● プロジェクト型学習の導入：探究心を育む課題設定。</li> <li>● 学習支援ツールの活用：デジタル教材で個別最適化学習を推進。</li> <li>● 教師のファシリテーション力向上：思考を深めるための効果的な問いかけ技術の研修実施。</li> </ul>
<b>取組内容 06【基本的な方向 4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポートフォリオ評価の導入：学習の過程と成果を可視化し、主体的な学びを促進。</li> <li>● 探究活動の体系化：各学年に応じた探究テーマを設定し、継続的な学びを支援。</li> </ul>
<b>取組内容 07【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域スポーツクラブとの連携強化：定期的な交流試合や合同練習、保護者交流イベント。</li> <li>● 健康習慣プログラムの導入：食育と運動習慣の両立を推進。</li> <li>● フィットネスチャレンジの実施：学校全体で取り組む体力向上イベントの企画。</li> </ul>
<b>取組内容 08【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康リテラシー教育の強化：栄養、メンタルヘルス、ライフスタイルに関する授業の充実。</li> <li>● 家庭との連携強化：定期的な健康通信の発行や家庭向けの啓発活動の実施。</li> <li>● 食育イベントの開催：地域の食文化や農業体験を取り入れた実践的な食育活動。</li> </ul>

## 大阪市立難波中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>学びを支える教育環境の充実</b> ◇ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70% 以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) ➤ 24.5%(12 月末時点) ※未達成 ◇ ICT を効果的に校務や学習活動で有効に活用していると回答する教職員の割合を 75% 以上にする。 ➤ 83.3% ※達成 ◇ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。 ➤ 76.3% ※達成 ◇ 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 67%以上にする。 ➤ 58.7% ※未達成	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】</b> ● 授業にデジタル教材を活用した自学自習の習慣化を図るとともに、不登校や教室に入りづらい生徒の学習機会を保障する。 ● スマートスクール次世代学校支援事業で導入しているツールを活用し、生徒理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を実現する。 ◇ 生徒の ICT 活用を指導する教員の能力に対する肯定的な回答の割合を 80%以上に する。 ➤ 83.3% ※達成 ◇ ICT 活用による生徒の悩み相談に迅速に対応する教員の割合を 100%にする。 ➤ 100.0% ※達成 ICT 教育アシスタントや次世代サポーターによる研修を実施した。年度当初より端末活用率は伸びてきたが、11 月から伸び悩んでいる。家庭の環境により持ち帰りが厳しい家庭があることにも悩んでいる。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゆとりの日や学校閉庁日の継続実施、時差勤務制度の活用や勤務時間の割振り変更等により、教職員が働きやすく、子ども達と関わる時間の確保に努める。</li> <li>● 欠席連絡アプリや AI 採点システム、グループウェア機能などの活用により、学校運営の効率化を継続する。</li> <li>● スクールサポートスタッフや部活動指導員の活用により、教職員の負担軽減を図る。</li> <li>◇ 勤務条件制度や配置スタッフを活用し、仕事と生活の調和を実現する教職員の割合を 80%以上にする。</li> <li>➤ 87.5% ※達成</li> <li>◇ ICT の活用により、学校運営の効率化を感じる教員の割合を 70%以上にする。</li> <li>➤ 100.0% ※達成</li> </ul> <p>子どもと関わる時間の確保について、会議の在り方を含め、様々なツールの有効な活用促進を図る必要がある。生活指導やケガの対応では、部活動指導員だけの指導体制では厳しい面もある。</p>	B
<p><b>取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様性や発達段階に応じた子どもの読書環境の整備・充実を図り、読書に親しむ生徒を育成する。</li> <li>● 地域人材やボランティアとの連携協力により、人と本、人と人をつなぐ場を拡大する。</li> <li>◇ 生徒の読書の興味について最も肯定的な回答の割合を 39%以上にする。</li> <li>➤ 28.0% ※未達成</li> <li>◇ 全校生徒が読み聞かせに携わる機会を年間 8 回以上設ける。</li> <li>➤ 1 月中旬で 11 回実施、後 3 回実施予定 ※達成</li> </ul> <p>主幹学校司書を連携し環境整備・充実を進めた。元気アップやなにわ絵本の会、生徒による読み聞かせを充実させた。読書の興味についての調査では指標を下回った。</p>	B
<p><b>取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校運営についての保護者や地域住民への情報提供や、保護者や地域住民の参画による開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>● 学校関係者の意向を反映し、学校関係者評価を通じて開かれた学校運営を推進する。</li> <li>◇ ホームページのアクセス数を 5200 件/月以上にする。</li> <li>➤ 5425.7 件/月(1 月末時点) ※達成</li> <li>◇ 学校運営へ参画が進んだと感じる保護者の割合を 77%以上にする。</li> <li>➤ 69.1% ※未達成</li> </ul> <p>日頃より、見守り等で地域による学校支援をいただいているが、学校運営へ参画が進んだと感じる保護者の割合が目標値を下回った。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習者用端末の活用率が目標未達成(24.5%)。</li> <li>● ICT 機器の利用が特定の授業に偏っている。</li> </ul>
<b>取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教職員の働き方改革に一定の成果が見られるが、負担軽減には課題が残る。</li> <li>● 業務効率化は進んでいるものの、時間外勤務の削減が不十分。</li> </ul>
<b>取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書好きと回答する生徒の割合が目標未達成(28.0%)。</li> <li>● 読書活動が形骸化し、興味関心の幅が限定的であった。読書チャレンジなどの工夫を開始した。</li> </ul>
<b>取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 区イベントへの参加などで、地域との連携活動を実施。保護者参画の促進は課題。</li> </ul>

次年度(今後)への改善点
<b>取組内容 09【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ICT 研修の定期実施：教員向けの実践的研修を強化。</li> <li>● デジタルポートフォリオの導入：学習履歴の可視化と活用。</li> <li>● 家庭学習への ICT 活用促進：自宅でも積極的に端末を活用するための支援体制構築。</li> </ul>
<b>取組内容 10【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務プロセスの見直し：不要な会議や業務の整理と効率化。</li> <li>● ICT ツールの更なる活用：校務支援システムの活用拡大。</li> <li>● メンタルヘルスケアの強化：教職員向けのストレスマネジメント研修の実施。</li> </ul>
<b>取組内容 11【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書イベントの多様化：読書マラソンやブックフェスの開催。</li> <li>● 地域との連携：地域図書館や書店とのコラボレーション。</li> <li>● デジタル図書の導入：電子書籍の活用による読書機会の拡大。</li> </ul>
<b>取組内容 12【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域交流イベントの実施：区 100 周年記念事業とコラボした、地域住民や保護者が参加しやすい行事の企画。</li> <li>● 保護者参加型ワークショップ：教育課題を共に考える機会の創出。</li> <li>● 学校運営協議会の活性化：意思決定プロセスへの地域・保護者の参画強化。</li> </ul>